

基本 計画



4 水産業

現状と課題

耳川、小丸川、一ツ瀬川の源流を持つ本村にとって、河川の整備や環境維持は重要な取り組みの一つです。

河川環境については、国や県、九州電力などに濁水流出防止、堆積土砂の除去、護岸工事等の対策を毎年要望しており、改善が図られています。また、尾向地区に設置した魚道では魚の遡上が確認されるなど一定の成果をあげています。10年前と比較して河床が上がっている河川が多く、魚類の生態系にも影響が出ているため、まずはこれらの問題についての改善を優先的に進めていく必要があります。

稚魚の放流については、補助金等を活用しながら毎年計画的に実施しており、村内ではヤマメ稚魚の養殖を行う事業者も増加し、新たな産業として期待されています。しかし一方では、近年、稚魚への悪影響が考えられるイワナが外部からの放流により増加傾向にあり、その対策が急務となっています。加えて、近年注目されているワカサギ漁の対策、活用法についても今後の検討課題です。

また、本村の豊かな河川環境は、観光産業にも寄与しており、毎年多くの釣り客が訪れています。1日限りの釣り大会などが実施されているものの、今後は経済的効果が大きい長期間にわたるトーナメントの開催や観光産業との連携した取り組みが必要です。

河川環境の保護や整備、河川環境を活かした観光の振興は、今後も継続して取り組む必要があります。そのためにも椎葉村漁業協同組合の組織的な活動は欠かすことができません。しかし、年々組合員の減少や高齢化が問題となっているため、組織としての育成・強化にも同時に取り組んでいく必要があります。

基本方針

河川環境の保護及び魚族繁殖に取り組むとともに、豊かな河川環境を活かし観光の活性化につなげるため、遊漁※1の振興を図ります。

※1 遊漁: 娯楽を目的として行う釣りや潮干狩のこと。

施策の体系



施策

① 河川環境の保護と魚族繁殖

- 水質低下及び濁水対策による河川環境の保護や、魚道整備、稚魚の計画的放流、養殖業者と連携した魚族確保、産卵床の設置等により魚族繁殖に努め、水産業の振興を図ります。

② 遊漁の振興

- 交流人口※2の増加により観光産業の発展に寄与するため、釣り場や河川を活かしたイベント等を通じて遊漁の振興を図ります。



■ヤマメ釣り



■ヤマメ

※2 交流人口:観光、仕事、学習、消費などさまざまな動機で村を訪れる人口のこと。